

# 令和6(2024)年度栃木県ニホンジカ管理計画モニタリング結果報告書(概要版)

## 1 総合評価

捕獲数は14,072頭であり、管理計画に掲げた年間の捕獲目標11,500頭を達成した。

一方で、生息密度が日光鳥獣保護区内周辺を中心に高水準で推移していることや、農林業被害が発生していることから、関係機関等と連携して捕獲の強化や侵入防止柵の設置などを行っていく必要がある。

## 2 調査の結果

### (1) 捕獲数と捕獲の分布

- ・捕獲数は、栃木県ニホンジカ管理計画(七期計画(R6～R12))に掲げた令和6年度の捕獲目標11,500頭に対して、14,072頭であり、過去2番目の数値である。近年、有害捕獲におけるくくりわなの捕獲努力量が高い数値で推移していることが要因となっている。
- ・高原山付近から日光鳥獣保護区内周辺にかけて及び県南西部に、捕獲数100頭以上の区画が分布している。
- ・県北東部における捕獲エリアが拡大傾向。県北東部は、福島県、茨城県との県境域に位置しており、各県や関係機関とも連携した、広域的な視点による情報収集や捕獲などが必要である。

### (2) 生息密度

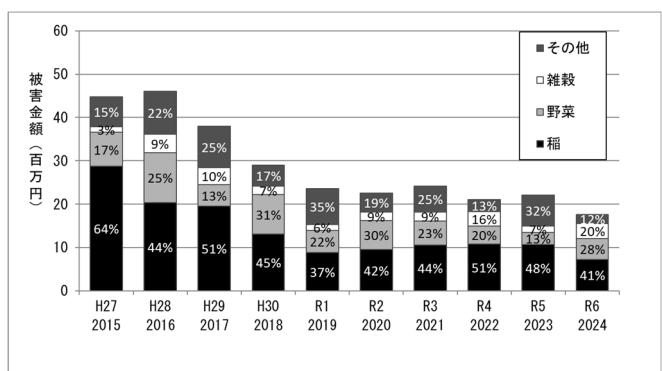
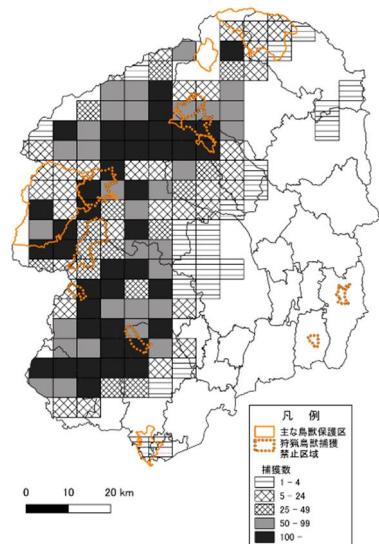
- ・日光鳥獣保護区内周辺での生息密度は、一部減少傾向にある地点が存在するものの、依然として高い数値で推移している。この地域では、日光市や日光森林管理署による有害捕獲に加え、県による指定管理鳥獣捕獲等事業が行われており、関係者が連携してこれらを継続していくことが重要である。
- ・日光鳥獣保護区周辺以外の高原山周辺でも生息密度が高い地域が存在することから、生息状況調査を継続し、早期に対策を講じることが必要である。

### (3) 被害の発生状況とその対策

- ・農作物の被害金額は、1千8百万円であり、令和5年度から4百万円減少し、平成28年度をピークに減少傾向にある。国の事業を活用した侵入防止柵の設置を対策として進めてきたことが要因と考えられる。
- ・民有林の被害金額は、7千万円、被害面積は19haであり、被害金額、被害面積とともに令和5年度から減少した。獣害防止チューブや獣害防止ネットの設置を対策として進めてきたことが要因と考えられるため、引き続き、関係機関等と連携し、これらの対策を推進していく必要がある。

ニホンジカ捕獲分布(有害捕獲等)

令和6年度捕獲数: 11,163頭



シカによる被害金額の推移(作物別)